

戶名所圖書

十五

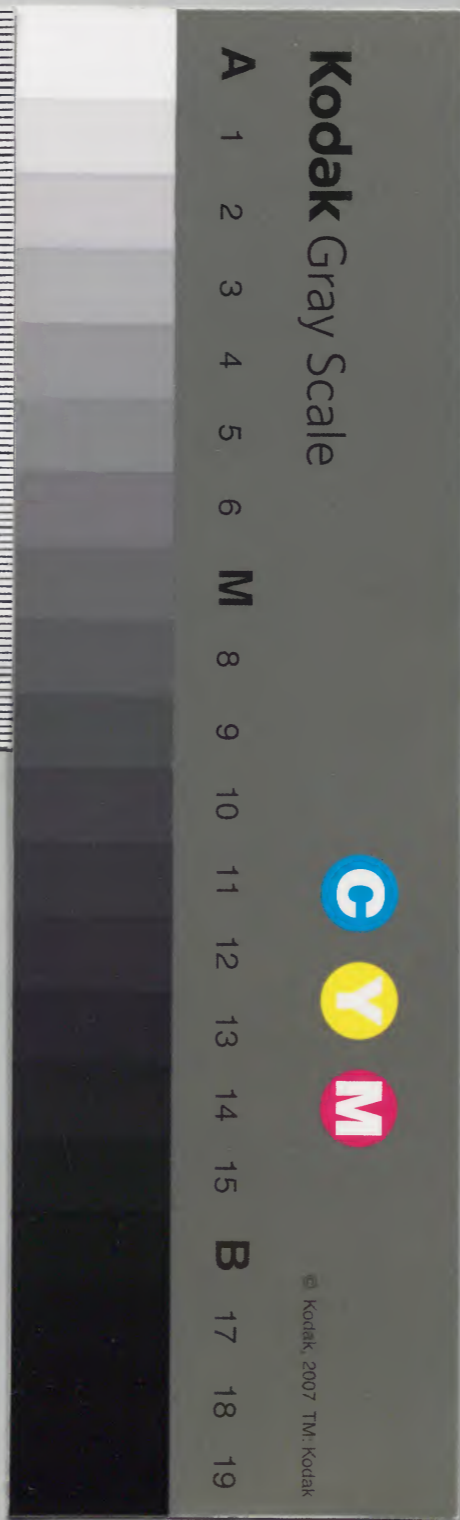
			二二七	和
		一四一	八	書
二	四	八		門
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	內	
二六		二二七		和
七函		一八		書
一	二〇	八		
五架	冊	號	類	

內閣文庫	
番號	和 22718
冊數	20 (15)
函號	267 81

和書門

共廿



根津権現社

上野より五町を隔て乾の方あり

素盞盞鳥尊

相殿

右八幡宮

源家

一〇九〇五號

大樹の文昭

寺産七神

寺宮系

故後

右の

寺館

の地

甲府公

所館の地

根津権現

一〇九〇五號

一〇九〇五號

と掛る根津

大権現の額

大明院宮

と辨法親王

の足蹟

あり

舊地

勢本

の上元

根津

と云ふ

ところ

あり

祭禮

観音堂

奉祀

の

傍陽清水

の

摸

あり

當社

境内

の

假山

泉水

等

と

の

珠

の

門前

の

賃

食

聲

同

新

寺

の

聲

同

普賢山

法住寺

谷中

三崎

あり

淨土

宗

安置

瓦山

八幡

隨意

院

了

願

和尚

あり

其

頂

一

流

の

高德

あり

て

貴

と

貴

と



根津權見社





賤の信仰女がら以宝曆年中當寺と草創其砌貴様男女と擇り以
 土破と運小車一貫毎十念と授くこゝまでひて老若を厭は
 日々群集し不日成就せり此地ハ清浄無塵の佛界にして六時
 禮讚の聲ハ杳々と共寂々なり

日登山妙林寺 法住寺の西小川を隔てあり日蓮宗より天文年

中の草創あり元山ハ日秀上人とと正徳年中故ありて天台宗に改め
 られ後海法印と中興元山と云

田中辨財天社 昔ハ田の暇道の草堂に安置ありと弘安六年に内海河某始て此社を

顧地藏尊 感得の靈像あり
 靈験不動尊 延享三年七月八日浅草川より出現せし像あり許長一す七方

讚曰金利 石堅 神惠 佛救 授福 興徳 靈験 不動

大観音 千駱本七軒寺所光源寺といへる浄宗の寺内みあり和刀に

長谷寺の寫しにて十一面観音の立像六尺あり又同堂内み千駱の



根津権現舊地

根津権現の地は、
みづの池のうへに、
そりのの池とて、
いり此池の草花を
多く庭中四時草木
の花はす



観音と安ん貞享年中江府の高人丸吉兵衛かゝり是と建立

大覚山浄心寺

丸山町あり日蓮宗

にて太田資高の妻と浄

心院日海禅尼草創北条五代記み永祿七年小糸氏康と里見義弘と

と渡り合戦の時資高のれり妻の親なり太田下野守

散して後妻此事と聞大は歎き葬禮伝ころよいとあ後長吉と

父の菩提の為武具神田は浄心寺と建立と云

神田ありと小石川より後後今の地より川さ

按る寺傍に太田資高の室八小糸氏細の女て康資の母あり後康資母後の

ため天文十九年當寺を太田平川より草創といひ後康資母後の

寺説を以て是とまをさを遷て考証とし當寺の隣今ハ亡たり後ハ深草元政

かり草山集又出る故よくに奉く

浄心寺鐘銘並序

古者論卍創守文二者之難矣盖無卍創莫成守文

無守文莫遂草創然者皆難矣武江浄心寺山号

大覚開基祖曰成乃以天文十九年創之而九世

祖曰日真方此之時江府大火因移地於小石川大



駒込
大観音

揚再興之力蓋淨因野感未發佛殿方丈及厨庫
 院而乎新成矣夫極智呀照之如々
 日觀之古府内之遠近而不覺分初頃者我觀彼久遠猶如
 此也昔今日之開地基今城之外之再興今昔雖異均是我
 土且以今日之地易之難相處今昔雖異均是我
 也且以今日之地易之難相處今昔雖異均是我
 古之所謂天門守文而難相處今昔雖異均是我
 有斯人焉有斯處焉而固欲推克峻拒焉銘曰
 矣鐘成乞銘於大離火宅異
 淨心爲真因於大離火宅異
 以名山與寺始無東西鼓
 如々常寂光始無東西鼓
 斯備晚成土音擊作佛事
 善武東漸土音擊作佛事

目赤不動堂

駒込浪香町あり
 像彫刻して彼像と暖籠とす則赤目不動と号し此取一宇と建
 供奉せし不動の尊像屢靈換あるは仍て其威靈と恐れ別今
 立せり
 後年終目黒目白對して目赤と改むとそ

丸山まるやま
浄心寺じやうしんじ



諏訪山吉祥寺

同取壹所とあり北の方よりあり曹洞の禪宗よりて江戸

檀林のありて禪檀林と号し諏訪山の敷地を汲み汲み諏訪山と奉尊ハ

釋迦如來宛山ハ青巖周陽禪師あり當寺ハ長禄年中左田持資

江戸株と管一讀かこ井と堀一土中より吉祥増上の文字

あふ銅印と得をり依古瑞ありとて一宇と建直は吉祥庵と號く

其後北条幕下遠山丹波守中興ハ天正年中所株

所造営の時五代目用山神田の臺に地を賜ひ寺領等と附せし遂に

明暦三年今此地よりつら

寺樹と

駒込神明宮 同野ニ下より北の方よりあり社傳ハ云文治五年右大將

頼朝公奥カ初征伐の時靈夢の事あり々々其朝此ありは社地を

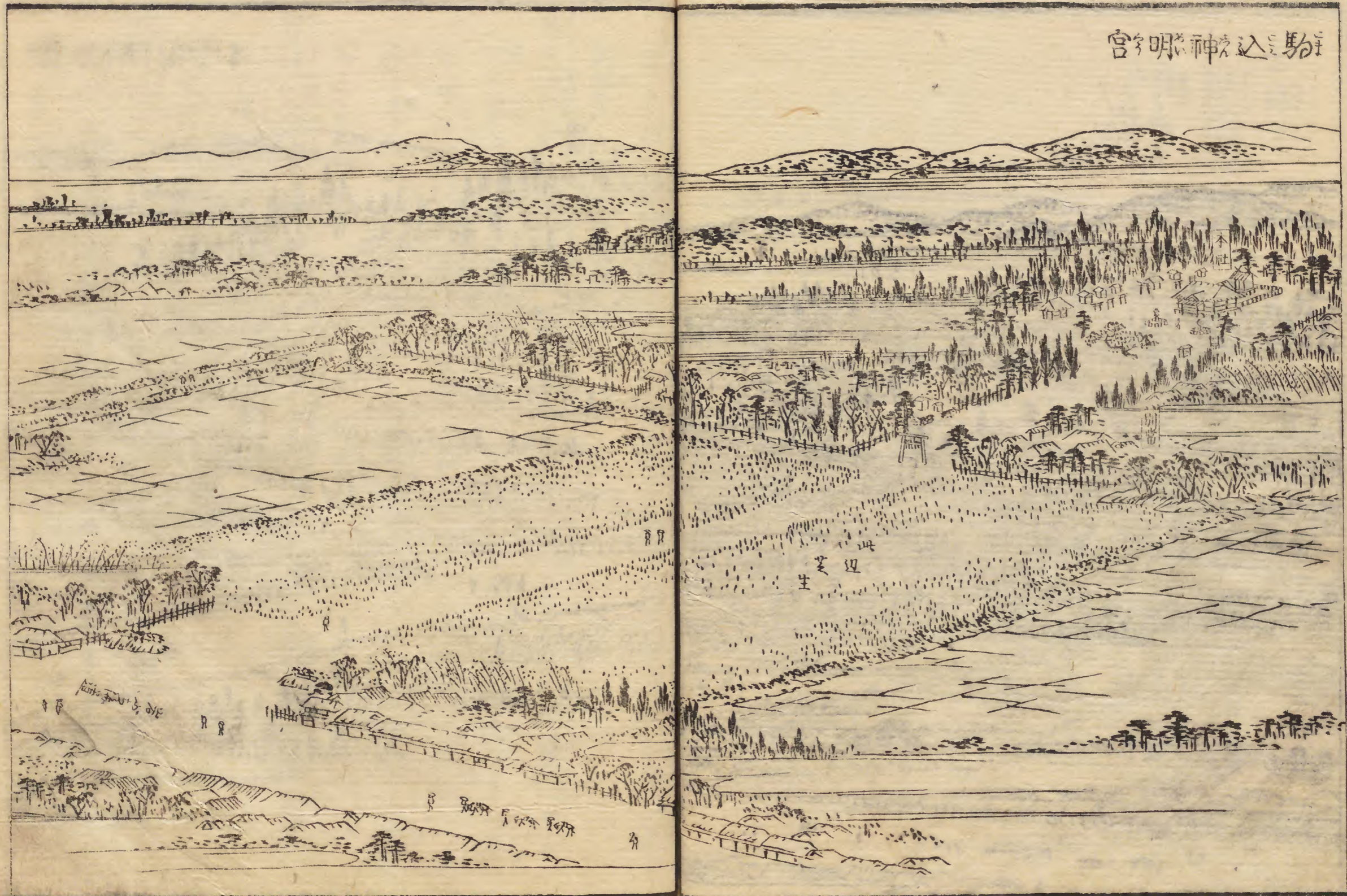
求め索り一松株の枝ハ大麻のかけれるあり公是と拜しは是靈

夢の應ありとて直小其地ハ神明宮と勸請以と云 其後多くは星



吉祥寺
 表門の内左右
 並木の楯ハ
 其昔
 公より楯させ
 七も表門
 なる

駒込神明宮



富士浅間社



霜と狂て破壊よとよひ一城慶安の頃塔丹波守利直再興あり
倒祭ハ九月十六日あり

富士浅間社 同取あり祭神本花元那媛一坐あり往古靈瑞あり小
仍て是と鎮坐といへり當社昔ハ奉々加の加彦の後園あり一貫永

年中今の地ニ迂さる毎歲六月朔日祭禮至て前夜より詣人多く道
傍ニえり此地の産物として麥藁細工の蛇ありひよも龜五文の網

寶珠山與樂寺 田畑村あり真言宗より奉尊地藏菩薩ハ
佛ニ春日の作完心ハ行基大士あり

阿彌陀堂 本堂の左の方あり奉尊ハ行基菩薩の作
六阿彌陀佛の四番あり

畑八幡宮 同不西の方あり田畑村の鎮守とす相傳ふ文治五年

頼朝と勸請す昂駒込神明宮と同時の落座なりと云別當真言
宗東覺寺と号して弘法大師の作の不動尊と奉尊とす完心ハ

六月朔日
富士詣

煎夜より 論人多く
甚嬌つり 此日夢
藻細の蛇をひよ
と 立及の細を
と 強く





圓勝寺

五石松

當寺は五石松とて
一株の古松あり一
枝ハ枯て多岐の
枝より慶長の頃
五石
大樹 淨放翁の折
あり 淨庵詞あり
李小 五石の多行と
下 贈ふ
名つくさう云
伎へり



行基菩薩あり

光明山圓勝寺 中里あり浄土宗より奉尊阿彌陀如来ハ慈覺大師

の代助士ニ菩薩ハ惠心僧都の作あり 宛心ハ深蓮社聖法上人當寺

始ハ浄珠内竜の口あり一とそ

執至堂 奉堂の木の多岐の五石の上あり三尊の淨陀佛とあり俱小佛工春日の他をり今

藤林山西福寺 漆井村あり真言宗より奉尊ハ阿彌陀如来

とあり徳一大師の作あり當寺ハ杖女の地をりといへともを殊勝の林凡

刹あり

漆井稻荷社 奉堂の左あり往古より鎮坐ありて漆井一村の鎮守とて此亦漆井と

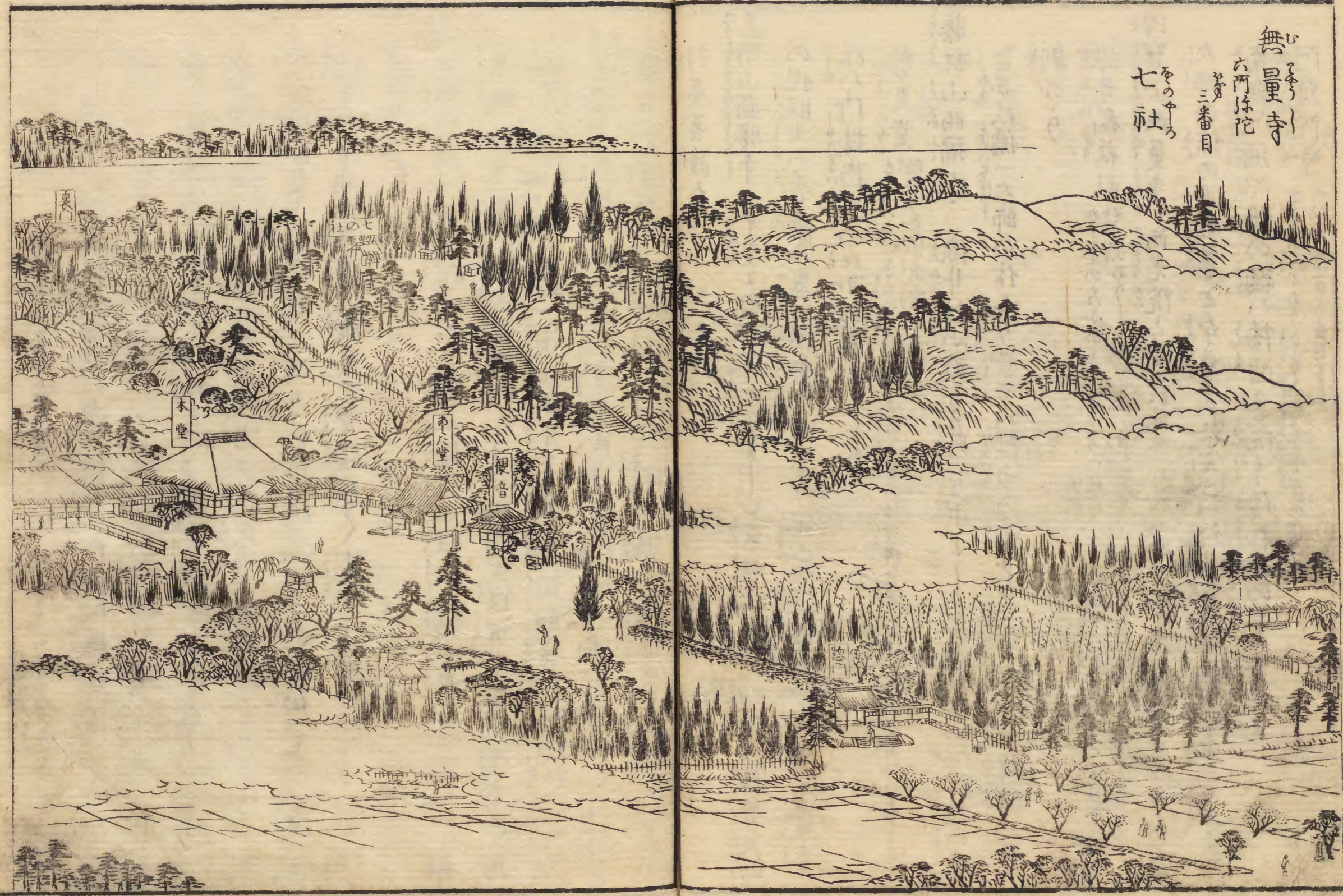
佛寶山無量寺 西光院と号以同原北の西原あり真言宗より弘法

大師の作の不動尊と奉尊と以宛心ハ行基菩薩あり奉堂小と

南無阿彌陀佛の額ハ幡随意院了願和尚の筆あり

阿彌陀堂 奉堂の右あり奉尊ハ行基菩薩の依

無量寺
六門法陀
三番目
をのちろ
七社



神陀山昌林寺

同所西の方より曹洞の禪宗より奉尊未本觀世音菩薩八定山行基菩薩の作り往古六阿陀彫刻の折々未本を以て代りたりひーとそむくハ補陀洛壽院と號其後久く荒廢小とよ小地は應永年中祥林といへる僧中貞坊より昌林寺と號其後同十八年鎌倉持氏公の母堂深く是城信一堂宇と彼管あり又文明の頃右田道灌二十余丁の畝田と寄附其後大永年間の兵火は罹りて堂塔悉く炎焼す今ハいふ一の傍の之故存せり

平塚明神社

平塚村小あり當社縁起云往古八幡太帝義家兄弟與日加前後十二年の戦終凱陣のころ此地は逗留ありて珠主豊島氏某義近ともより鎧一領并小守奉尊十一面觀音を賜ふ其後元永年中豊島氏珠内清淨の地と擇びて彼鎧と塚は築末収め塚の形高かりて以て平塚と號其後久く荒廢す城の鎮守とす且社代管じて

三連枝の像茂安一平塚三所明神と号

八幡宮神義家加茂次郎義綱新羅三所義光

是義家は兄弟の武功と欽崇因武運と祈らん為ありと云別當と

平塚山珠寔寺といひ安樂院と号珠寔寺の末代ハ本代阿弥陀

如來と安す赤檀佛毘首羯磨天の昔筑紫安樂寺の僧田圃修行の砌

此像とて小安置せりとそ

白鬚明神社

同所畑の中より桑神ハ猿田彦命より豊島氏の勸請より往古ハ平塚の珠中よりとそ

平塚珠跡

平塚明神のありより荒鳥山の辺迄といふ鎌倉大

草紙云文明九年四月十三日道灌江戸より出て出豊嶋平右衛門尉ハ

平塚の城と取巻城外を放火して歸りたる處小豊島足助の勸解中

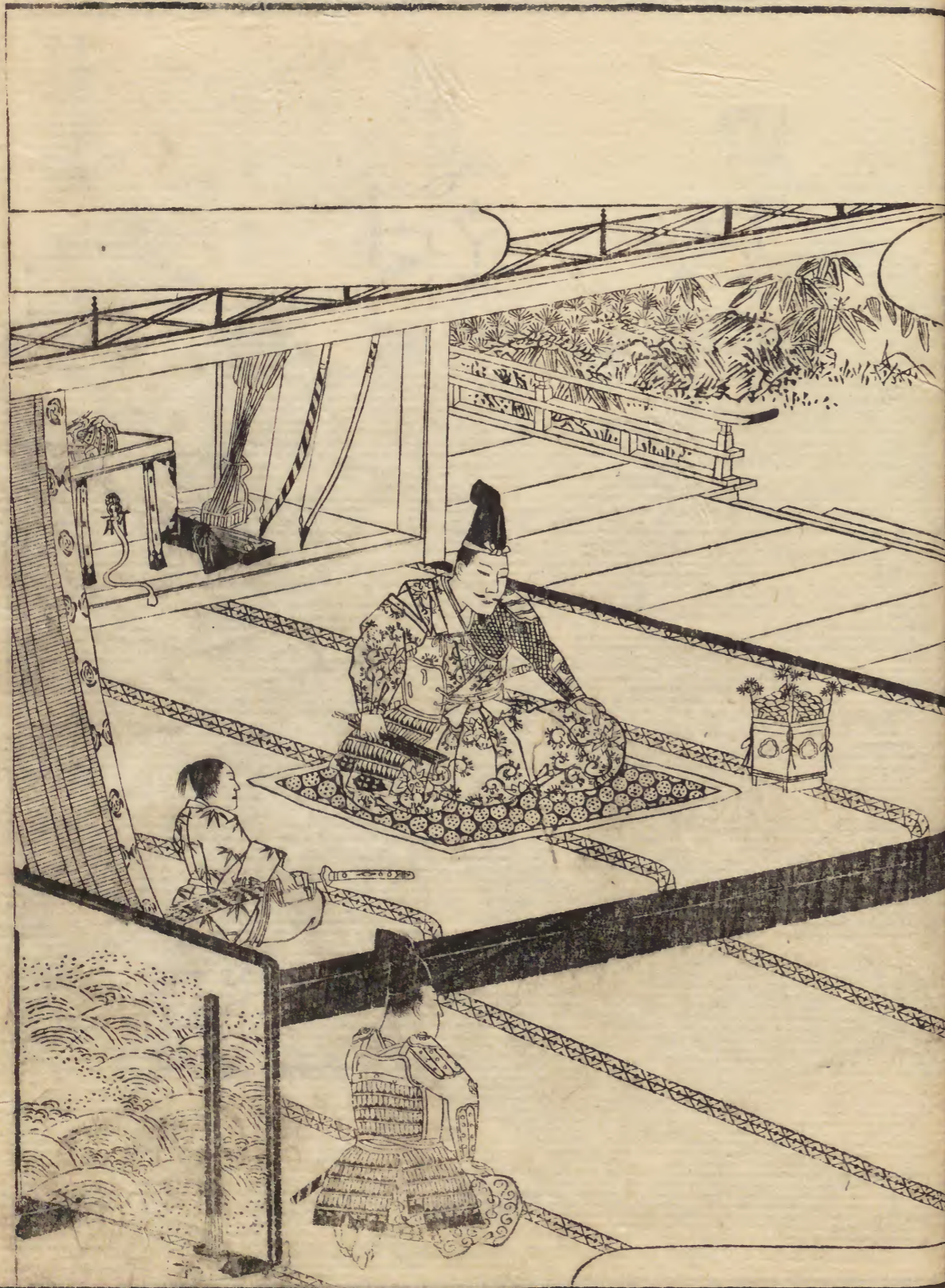
左衛門と頼ける間石神井の珠練馬の両珠より出攻来りなれハ

右田道灌上杉形部少輔千葉自胤以下江古田沼袋と云ふ

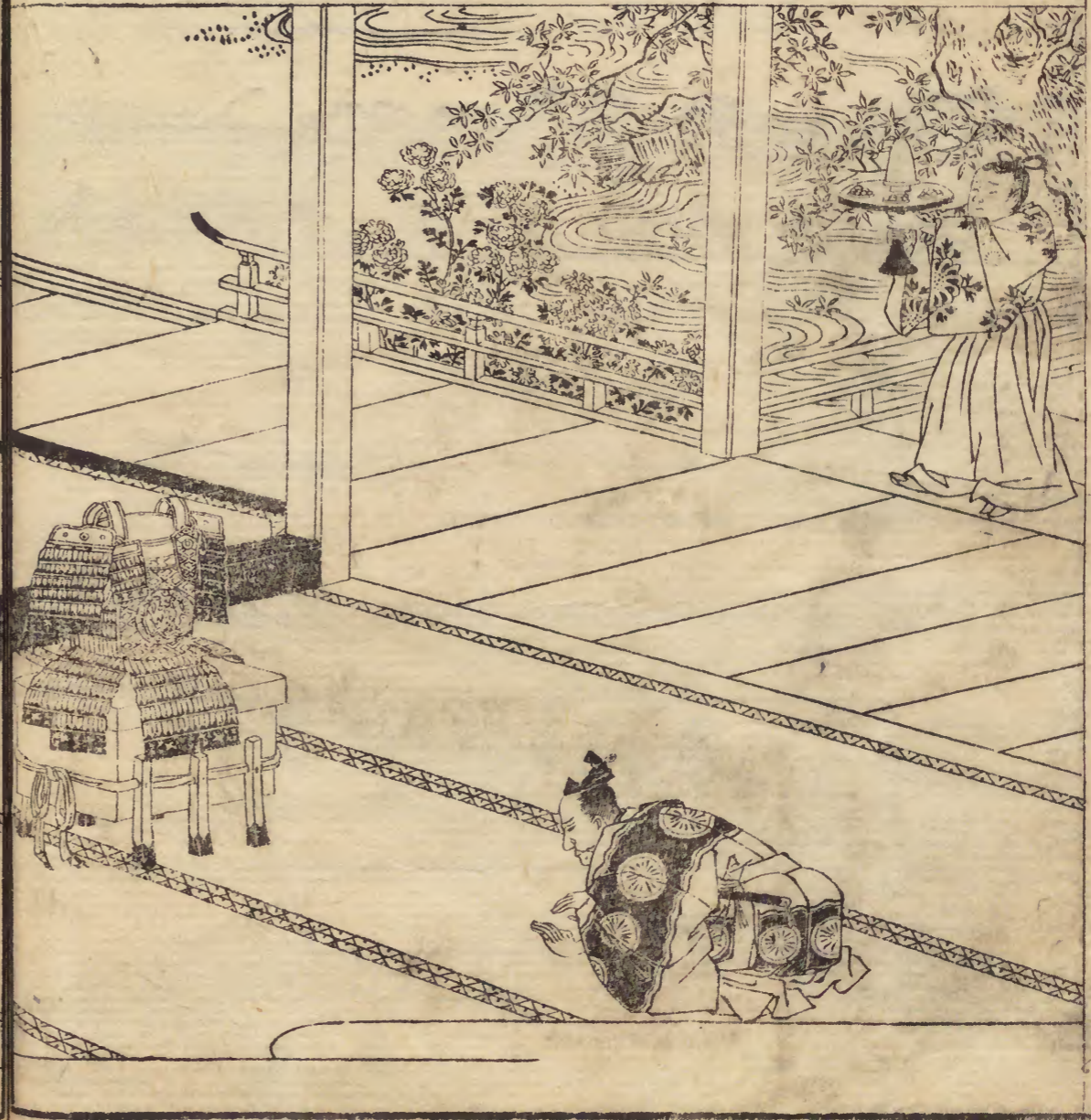
馳向ひ合戦して敵ハ豊島平右衛門尉と始として板橋赤塚以下

平塚明神社
別當 鏡塚
常 珠官寺





八幡を帝義家兄弟
 舞か加征伐凱陣の
 ころ武藏國よ入
 たのひ豊島某う
 住し平塚の妹よ
 逗留ありてあゝふ
 遺一領を賜わり
 けり後塚は築
 ぬめて妹の留守と
 平塚三不明林と
 いつこよりりしも
 實は武功のまろ
 一むら極ある



平塚津戦



鎌倉大草紙
文明十年正月
廿五日道灌豊島
勘解由左衛門
平塚の要害
押寄頭ハタレハ
其境彼處にて
敵ハ程九回殊
小机の味方絶と
ありハ此平塚の
事あり



白鬚明神社



百五拾人討死す 中略 同十年正月廿五日豊島勘解由左衛門平塚の
要害一押寄責々れ其曉没落して敵ハ九回株小机の株ニ
籠と云

大追物上覧地 同野道より右の方畑の地と指て云詳小林春齋先生

の作せる大追物記不出きり 因てて小田原に詳小記に

飛鳥山 數萬歩小越たる芝生の丘に於て春花秋草夏涼冬雪

眺めるの勝地あり始元亨年中豊島左衛門飛鳥祠と移す

命あり 因て飛鳥山の号あり寛永年中王子権現御造営の時此山

上にあつて飛鳥祠と遷して権現の社頭ニ鎮座を以てり其後元文

の頃 台命よりつて榊樹數千株と植させらる内ハ遊觀の便と

外ハ菟丸の爲ます年と越て花木林とある爾より人墨

客ハ白と摘章と尋ね牧童樵夫ハ杖と刈薪ととる殊よきはら

中ハ白の頃ハ榊花燦爛として尋常の觀はありは熊野の古式

あすろ
飛鳥山
せんつ
全圖
あすろ
飛鳥橋



此辺料理や市

此辺料理屋

花と
いて
ま川へ
志こむ
震
の
風雲





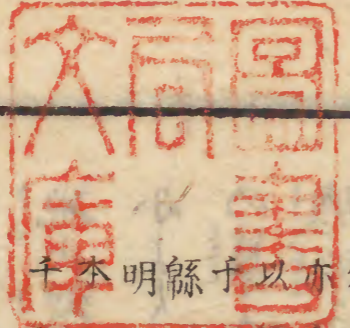
其二



殊更凛々たる所
 避暑と
 避て片路よ
 おりひくんと
 忘りの中も
 又々す



飛鳥橋の
 貨食の
 亭造の
 後亭の
 音流の
 下流さうけく
 住例とか
 都下と
 常は玉子の
 稲荷の
 臨む沈酔
 催し沈酔
 多し百日月ハ



其二



祠於本今茲丁巳春三月己亥我屬奉祠者衛等規
 北於本今茲丁巳春三月己亥我屬奉祠者衛等規
 士封飛鳥之山有無祠者由焉三所之次規
 奉祠乃以舞之捧手則正敬則八之行以於穆我后事恭
 以誠治人明惠惟馨初飛鳥之行以於穆我后事恭
 神其不飲以明惟馨初飛鳥之行以於穆我后事恭
 焉車駕之明惟馨初飛鳥之行以於穆我后事恭
 泉瀑礮磬從而旋乃來也右司行芭蔬壤維兔徑
 外僂為林每春役數十人植之花木數株內成谷觀
 亦為祀者其契會之燬焉非抑亦國家之符也遂鑿
 以花為祀者其契會之燬焉非抑亦國家之符也遂鑿
 于石以荒為表其來有封其域
 明我後荒為表其來有封其域
 明我後荒為表其來有封其域
 載支明我後荒為表其來有封其域
 載支明我後荒為表其來有封其域

元文丁巳之秋
 碑陰飛鳥山四至榜示

自長至坤七十三步
 自巽至乾二百二步

東都圖書府主事鳴鳳鄉代撰拜書
 加藤忠郁刻

短冊公狗舊跡
 今より昔年あかりのひかり
 此の産あり事を志し以て短冊と賣りて世の業と為りて人の是を呼んで短冊と云ふなり
 冊の産あり事を志し以て短冊と賣りて世の業と為りて人の是を呼んで短冊と云ふなり
 冊の産あり事を志し以て短冊と賣りて世の業と為りて人の是を呼んで短冊と云ふなり
 冊の産あり事を志し以て短冊と賣りて世の業と為りて人の是を呼んで短冊と云ふなり
 冊の産あり事を志し以て短冊と賣りて世の業と為りて人の是を呼んで短冊と云ふなり

王子権現社



王子権現社

飛鳥山の北の方音を河を隔てあり

奉殿 祭神 伊特冊尊

右 龍速王男命 左 事解男命

三神鎮座

社記曰若一王子社ハ紀伊國熊野権現と勸請以後醍醐天皇の御宇

元亨年中豊島何々の主とや新ニ祠宇を建て崇ける同霜

ぬり案月深して朝の露霧ハ香を林火りとあやしそ夜の月ハ燈を

挑ふ似せり靈神ハ人の敬よりて其威とま一境致ハ靈神の徳

ふよりて其名を弘くはらく此神の奉と尋れハ伊特諾伊特冊

の尊と申ハ二柱のみこと國土とらみ萬の物とらり其廣大の功

徳既ふ成て後伊特冊尊神退ま一々ハ紀列熊野の有馬村

よおはちまらふ熊野大神是なり此神を祭るふか春ハ花ともて

祭り鼓うち笛吹旗立て調舞て祭る白河院の御製ふ咲白

花のけしきと見えふくく神の心をふまらるくとよみぬるハ

花去らわの事あるハ此神の御子と熊野早玉男とより其第二

白河院御製

暎よ海ふ
それの
くさきと
ふんかふ
神の
ふと
ふと
ふと



其二





花慎の
 祭記ハ
 今
 たり
 存
 せん
 う
 古
 風
 を
 摸
 寫
 して
 加
 へ
 小
 加
 へ

第一番 中門口
 第二番 道行腰作
 第三番 行違腰作
 第四番 脊摺腰作
 第五番 中居腰作
 第六番 三拍子腰作
 第七番 點禮腰作
 第八番 捻二度
 第九番 中立腰作
 第十番 搗笄腰作
 第十一番 笄流
 第十二番 子魔歸



祭禮

毎歳七月十三日神前
 祭禮
 拍板お真形あり此日同
 左の如く掲げ
 赤得水の





元山乎其測乎草神鳳福分語一奎眞祀爲邑冊尊唯帝本祀熊熊
 文碑不必之聖木而鄉八欄神玉二眞二藩邑尊所耶六宮伊桮之桮
 丁遂遷在謂者區秀聞忍二之子神中神鼓有旣過智十五十冊神蓋傳記
 已閱嗟結神其出而可紀自之形配生動物地舞窟生乃起何建本曰皆
 之舊乎繩先不寧遠體人外惠於熊日象其跡今尚神國皆也言耶雄命
 冬史謹之而然知厥矣熊桮祠已物至稱天荒國本蓋古之遺也祀之
 東叙國神邪不土厥石之則其息新官常先六神又曰有産田祠又
 都三其德蓋在壤赤磊山自大其略也玉智亦類依弱之開關之祠始
 中秘神疇不可神乎壚而肥麗而所各夫爵一依弱之開關之祠始
 書事如欽斯在彼雲雨止澄馬徹而固其其所存焉徐特我弱傳始
 監此哉如跡膏興神之水澄馬徹而固其其所存焉徐特我弱傳始
 源鳳卿日神盤右統干之福釐其不所廢造焉徐特我弱傳始
 鳳卿子陽謹識

熊野三神傳記壹卷

金輪寺に傳ふ元文三年成島氏信通
 命と奉じて是と識

征夷大將軍 餘大 臣從一位 源大君 治世 國之 暇敬
 也 頂年 武加 豐島郡 若一 王子 社者 所勸 請熊野 權現
 神幣 令愚 拙撰 其詞 於社 是能以 揮行 草之 勢盡 工盡
 丹青 之令 愚拙 撰其 詞於 社是 能以 揮行 草之 勢盡 工盡
 命者 最復 愚拙 撰其 詞於 社是 能以 揮行 草之 勢盡 工盡
 覽者 最復 愚拙 撰其 詞於 社是 能以 揮行 草之 勢盡 工盡
 命者 最復 愚拙 撰其 詞於 社是 能以 揮行 草之 勢盡 工盡
 覽者 最復 愚拙 撰其 詞於 社是 能以 揮行 草之 勢盡 工盡

當社緣起三卷

餘大 臣從一位 源大君 治世 國之 暇敬
 也 頂年 武加 豐島郡 若一 王子 社者 所勸 請熊野 權現

と泉津事解男と申は延喜の帝の御時諸國の神社と記され
 一又紀伊國牟婁郡熊野早玉神社とあるは是なり此故小伊特
 冊尊早玉男事解男是と熊野三所權現といひをらへせる
 小ありぬ
 當社緣起三卷
 餘大 臣從一位 源大君 治世 國之 暇敬

大般若經卷第三百四十九 行卷之待考の余八室曆六年上り加藤屋村跡法寺

奉施入武別豊島郡能所権現御寶前文保二年戊午初秋

大施主在傍門尉平行泰教白とあり

古證文二通 小奈氏政氏直神領

蘆屋屋釜一口 若小奈氏直の奉納あり

祭禮 例年七月十三日ふして十貳番の拍板あり

此日玉子町の産子に 此日玉子町の産子に

て豊島屋奈終て後奈宿の貴儀彼降と携て取り火災盜難を除くの守護とて是

も古よりのお徳とて之をえし其か一奉七十余度の祭祀連綿として國成を安んずるが故豊

饒の御意を

奉比堂 奉社の左ふあり新官天照

飛鳥祠 奉社の右ふあり新官天照

康家清光社 奉社の左ふあり是豊島を所康家同権頭清光父の

樓門額

母王宮

仁和寺覺深法親王真蹟

當社ハすして紀別熊野山の地勢と寫し前小音河川の流とらけて

風色真如あり花の時ハ花とめて祀といふ神と小因もや社頭より

多く様樹を植て春の頃ハ境内殊々觀賞ありあり亦冬月雪の眺

望も佳小勝まり

王子稻荷社 同北の方あり往古ハ片稻荷と号し今當社より出すと

この牛若宝印小志り記せり

奉殿 倉稻魂命 奉觀世音 樂師如來

王子権現縁起曰われの世ふありん此社の傍に稻荷明神と云

いそひるハ毎年臘晦の夜諸方の命降此社に集り来ふ其ともせり

火の連りつげら奉そくそくの松明と並ふる如く數斛の螢と放

花しむふよ似そり其道野山を通ひ河辺をかぐる不同と見て明年の

豊凶を知るとせば命婦の父の白と丸の尾ありハ奇瑞のりありと

古き書小ありとあむ 下畧

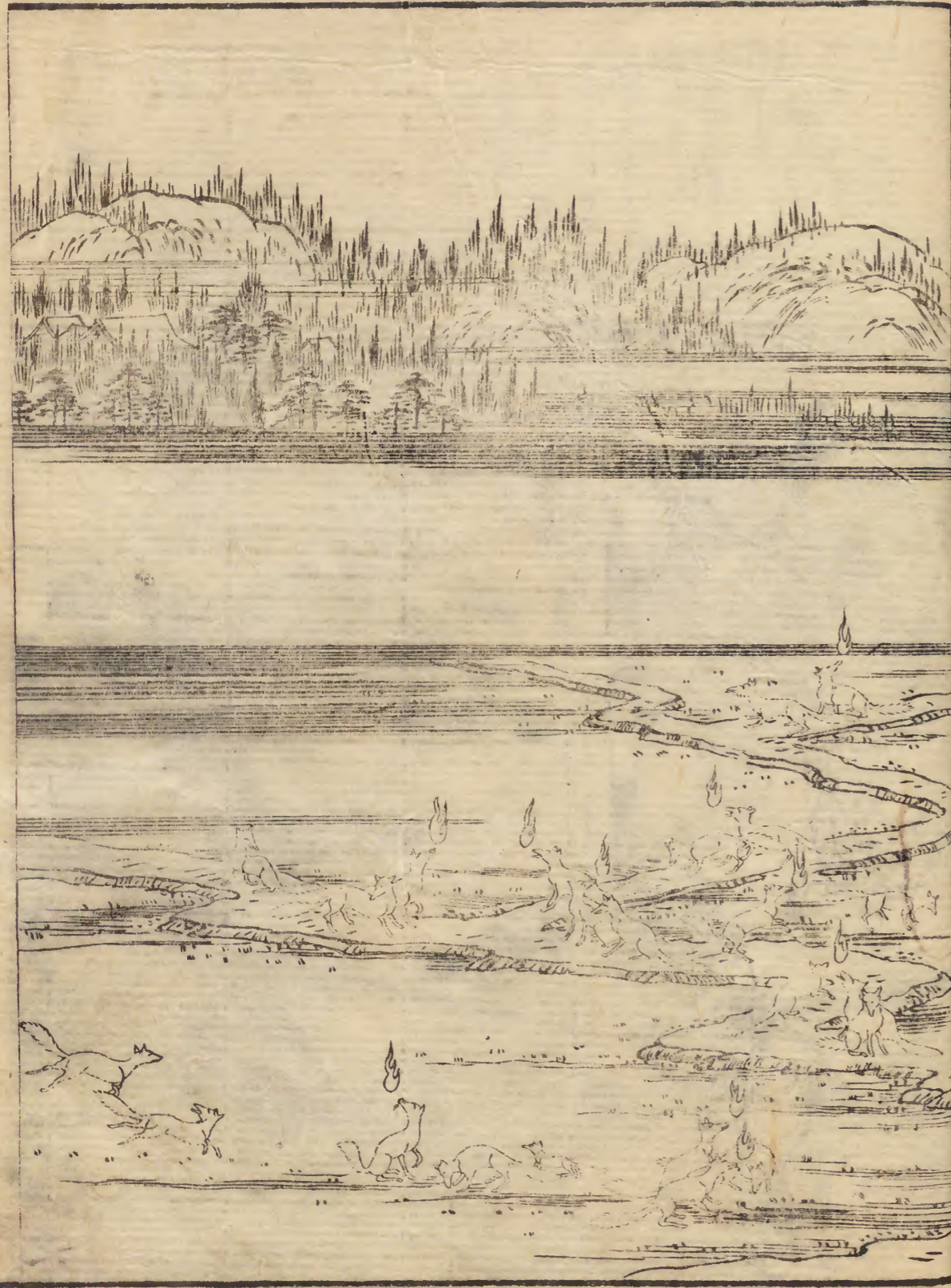
因云今の世三狐神の名に附令して伊奈利と白狐とすりゆのハ大なる誤りあり又

狐と伊奈利の使者と一又こと命婦ととらハ武書に云後小松帝の徳年申



王子稲荷神社





毎歳十二月晦日の
 夜諸方の狐寝し
 こみ集り来る日
 恒例として今お
 然り其燈せら火
 影小依て土民明
 年の豊凶とト
 とそ此事雪舟
 ありたての曉り
 何して時刻定る
 事外

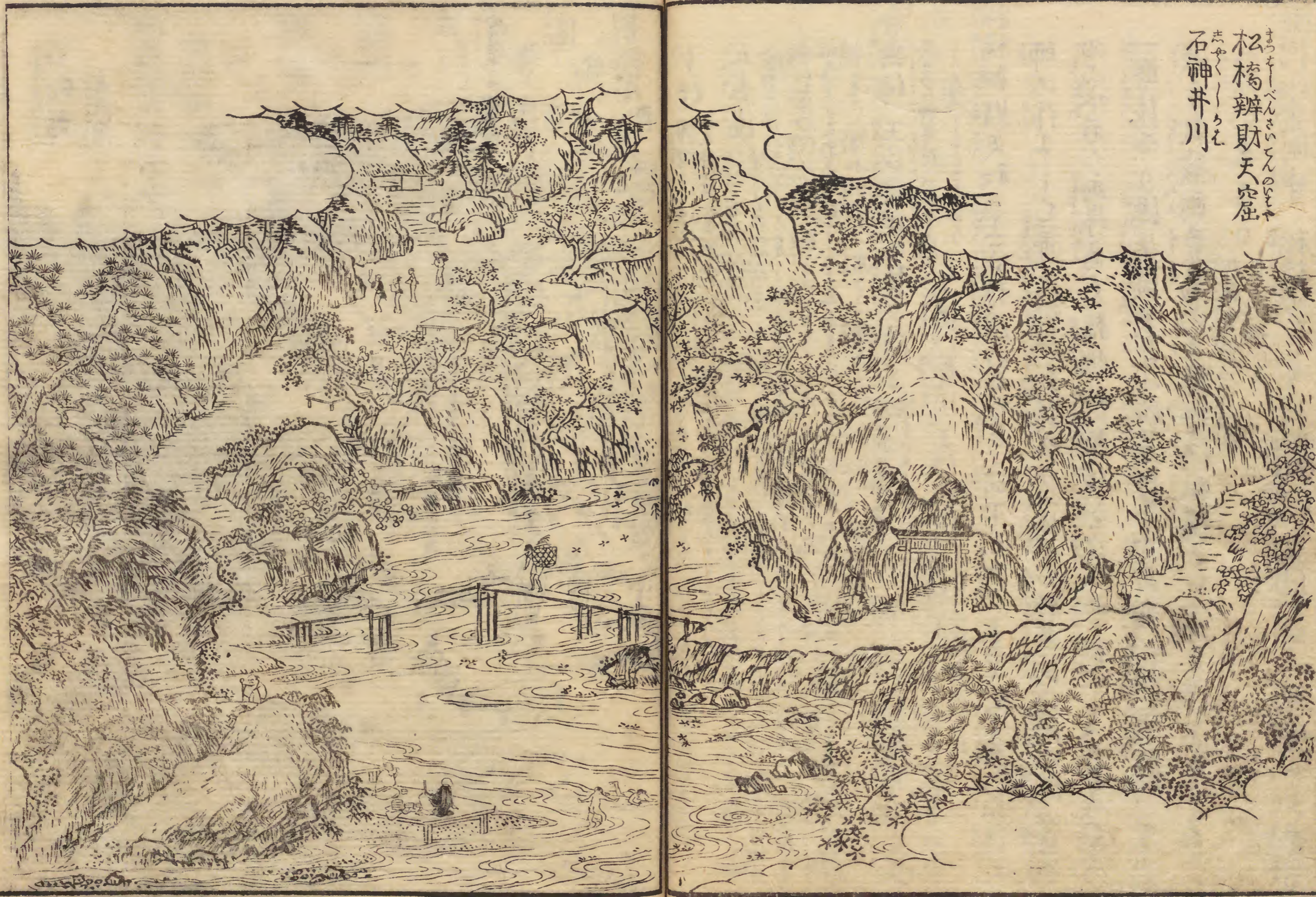
吐衣束自
 衣裳櫃

十八講

毎歳正月十七日
王子村農家
是と行ふ當日
権規の別當金輪
寺の住持と
言請一酒飯の
當番の百姓村
飯釜魚盤の
三品と推考して
のめそよいやさの
を聲とをさして
食とをさむ
是此の舊
例子として
十八講として
神領十八箇
村あり一頃の
旧村と



まつぎべんさいてんのどや
松橋辨財天窟
まかぐしうえ
石神井川



不動尊ハ昇大師の作なり其後あまの星雲相と稱て荒廢
小寺の他宗風ニ化せり天文の頃中興阿闍梨者印ありの
曩祖寔基の靈地として他の宗風ニ轉せし事と歎こ其頃小余
氏康小訟て再真言の靈區ニ復せしむとす

瀧不動尊 金剛寺の東二丁阿まりあり此境後ハ石神井川
ニ臨り寺茂正受院と号く傳云弘治年中和カ勿龍門の眞宗
學仙坊とる僧住て不動尊の法と修する事年あり或時靈象
成得て東國ニ來り此所ニ瀧のつり多ふと觀て是を幸とす
其傍小庵と結ひて不動の法と修せり去るふ其年の秋洪水ニ
て此河影一く水かさまさりしは中ニ光あり水落るの後彼
光のさくさくあまを求るは不動の靈像と得るなり不削ニ感得
せしとよろこひ昇て小安置し奉るとそ

自得山靜勝寺 曹洞派の禪宗として稻付小あり此地ハ田道灌

同譚の居跡あり道灌亡ふるの後ハ狐兔の場とありけり中頃
萍水浮雲の僧あつて此所ニ草庵と結ひ道灌寺と号す是當
刹の草創なり其後田家より當寺と建立ありて靜勝寺
と改む

觀音堂 奉尊土面觀音ハ辨養隆の作 久遠堂 道灌入道の
五葉松 南の支那の中に植 龜 池 寺の後の方ニありむり此池より

抑左田左衛門を支資長ハ 或ハ持資と号け初ハ源六郎此ハ龍金吾と極及羅髮
源三位頼政十世の孫備中守資清入道道眞の子なり扇谷上校
彼理を夫定政ニ屬し江戸城ニ住す父と共に武毅勇烈等東
ニ覆ふ故よ人唱んで眞灌と稱す城と築くは巧あり東城
の株多ハ道灌の指圖より築所なり長祿元年武カ加江戸城を
草創し株中ニ燕處の室をいとを靜勝と名ほく西を合雪
といひ東を洵和と稱す和漢の書を集る事幾千卷といふと

あつた常よこ小在て詩歌をたしむ仍疎北は管神と勸請一祠
城建る今の津味西平川此時兩上校山内上校兵部少輔房頭権とらつとひ
平小こをと後小間計を以て定正は道灌とうたふ一ひふふのりて
定正人をして灌と浴室小刺殺さしむ時小文明十八年丙午七月廿
六月年五十五歳相刃糟屋間冒死よのそむて云く余を害するは定正に死
の兆なりとをたして定正威喪へ再び振ひ灌をより先寛正年中
上洛す 勅してびさし其の勝景を伺しむ和哥を以て答へ奉る
露露並也方もありろり夕立の空よりひろさむびさし其の原
又平生の眊金銭とをさしむ
赤庵ハ松原つさ海をく富士の高根と軒端よとをさ
此時處感のありり 御製をたすま
むさし其の高萱のこと思ひしよかふる言葉の花や咲らむ
又ある時 勅して角田河の都鳥とといへたまふまよ

年少れと赤あつと志らぬ都鳥角田河系は宿ハあれとも
其餘の和哥ハ赤の集まつとを以てしてよ畧ん

赤羽山八幡宮社 ありを存びつらあり社傳云當社鎮座の年歴ハ
久きをよして詳をくつとそ中百大は荒廢よとよひ一城文明の頃
本回道灌再興ありしより祭禮怠る事を一神宝は獅子の頭
一個古き面二枚あり
川口渡 義經記ふ九席侍曹子奥刃より鎌倉よ至わかと
いふ條下は室の八島とを以て武藏國足立郡こらむらちよ著なる
侍曹子の御勢ハ十五騎よそありふさる板橋よをせ附て兵衛佐殿
へと向たりハ其とくひこを立せのひて候と申武藏の國府の六所町よ
つさて佐殿と仰けれハ其とくひ通らせたりひて候相摸の平塚よと
こそ申つると云
板橋は渡場よりも丁程南の方の元は府中道と記せしる石標あり是往古の奥の海道あり
是より板橋より府中の六所町より玉川と流りて相摸の平塚ハ此一あり

右當寺の八勝
 あり筑波石正
 倚の詩あり是
 と畧ん

懸雲燈
 圓通閣
 灌公祠
 梵鯨樓
 古城砦
 樓鶴壕
 靈龜池
 蟠松岡



静勝寺
 龜池
 五葉松





富士の

う根

新瑞よ

と

持資



永庵

松原

ち海

く

右田持資

合雪亭より

士峯と全と

松哥と祿す

赤羽山八幡宮



川口善光寺 川口村渡場の北にあり天台宗にして平等山阿弥陀院

と号し奉堂より阿弥陀院に來觀音勢至一光三尊と安す寺傳曰

往古定尊といふゆ門あり法華經と誦すこれ外池を建久五年

の夏一時睡眠の中は信の善光寺に來の靈告と得る事あつて速に

かこよまふて正しくぬ來の聖容を拜し示現に依て十方を勧む

財施と集金銅と以て中尊阿弥陀佛と鑄奉る時は建久六年

己丑五月十五日あり 佛の淨胸中より三寸五分の水晶の宝塔とて

又脇士觀音勢至の二尊と鑄奉る終に堂宇と建立して善光寺と

號し 佛告に依て四十八日の間四十八度の定眼供養と修行しけるに奉師に來降臨ありて

二玉門の額に平等山とあり八黄壁本庵の筆あり

豊島驛 今豊島村と号する地其旧跡にして往古に此郡の府あり

しと見ゆ續日本記に武藏國衆宿 今其所と云く 豊島の二駅の事と

奉たり又和名抄に武藏國豊島郡とあり中驛家と記せるはむら



川口
善光寺



河鍋匠

其家に傳へて云
天命國家の後
天皇
人皇九十七代光明
院の件宇智應
年同河丹南郡
此所に梅
其
子孫今猶こに
傳へて
連綿
そ





六
 阿孫 陀
 かけて
 かく
 らむ
 石とく
 きん
 其角



西福寺
 六河池
 茅壹番
 梶原塚

川まじ

塚原梶

梶原塚



の麓は今梶原屋鋪跡といつる所あり按ずると是も政景の弟

宅の地ありん

醍醐王山清光寺

豊島村あり真言宗にて豊嶋権頭清光の完

基あり奉尊不動明王ハ清光建立あり一七佛の隨一あり清光ハ頼朝

の家長ありて當寺ハ則清光舊館の地ありと云

釋迦堂 慶隆あり是も

豊島を帝康家同権頭清光墳墓 岡野に古松一株あり土民是を

稱して豊嶋の大松といひり 康家ハ清光の

紀明神社 清光寺より三丁を隔てあり祭神ハ五十盤命大

屋津姫命 柁津姫命 三坐あり

日本 紀神代 卷一書曰 素戔嗚尊之子號曰五十盤

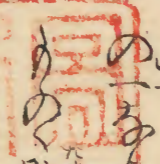
命 妹 大屋津姫命 次 柁津姫命 凡此 三神 亦能 分 布

木種 即 奉 渡 於 紀 伊 國 也 云 云 頃 彼 地 の 末 社 云



紀の明神社
 清光寺
 若宮八幡宮
 豊島川
 地蔵堂

鎮坐ありけるは故あつて天文年中今の地小宮居と移せしとて當社の
 昔より豊島村の産土神として祭例は毎年九月十八日執行社司松木氏の
 紀の初より末は彼池八尾司の因所あり奉尊八尾首尾観音堂天の御ありと云り此地も
 後藏ありと云り
 地藏堂 豊嶋川の端あり亀島山専林院と号し奉尊地藏菩薩ハ
 行基大士彫刻の靈像ありて豊島左衛門尉清光建立あり七佛
 のあり宝永二年乙酉祐天大僧正此地の住人白倉四郎左衛門といふ
 かの助よ依て再建しつゝ同四年正月廿七日入佛供養あり僧正其願
 群衆の男女十念授與ありし舊跡あり又堂内は祐天僧正自ら
 冥眼ありし六拾九案の壽像と置名号と添らる佛是と稱して地蔵の名
 訶羅多山地藏尊是も僧正の奉地佛として自ら冥眼ありしとあり
 若宮八幡宮 因所あり島川の端あり當社の豊島権頭
 清光の靈と傳るところあり



終畢

江戸名所圖會玉衡之卷

